

右翼の呼称 ～日本とヨーロッパの違い～

労働者教育協会理事・勤通大添削講師 下山房雄

「右翼」が政権に就いたフランス

フランスの年鑑 QUID(クワイッド ラテン語で「何?」の意味)は情報満載で大変便利である。毎年秋の新学期に本屋でヒラ積みになって売られる。その1997年版が私の手元にあるが、そこに掲載の1993年国民議会選挙(577小選挙区、過

半数得票で当選、1回で決まらなると候補が絞られ2回投票)結果を下掲する。よく眺めて頂きたい。

この選挙結果は「左翼の崩壊」と総括されている。1981年選挙で、議席を2.6倍余の269議席に伸ばして政権を獲得したフランス社会党は(1981-84年の当初は社共連合政権、また86-88年の政権喪失期=シラク内閣時代があった)、この選挙で

	第1回投票得票率%	獲得議席
UPF(フランス連合 RPR/UDF 連合)	39.47	460(80%)
RPR(共和国連合)	20.39	247(43%)
UDF(フランス民主主義連合)	19.08	213(37%)
諸右翼	4.71	24(4%)
全議会右翼	44.18	484(84%)
極右	12.68	0(0%)
PC(共産党)	9.18	23(3.9%)
極左	1.77	0(0%)
PS(社会党)と同盟者	18.67	67(11.6%)
諸左翼	1.64	3(0.5%)
諸環境派	11.84	0(0%)
全野党	55.74	93(16%)
環境派、諸中道派、独立左翼、白票	33.80	3(0.5%)
全左翼	40.00	93(16%)

200 議席余を失う大敗北を喫し、政権を失った。代わって「右翼」の二党派が、「左翼」大統領ミッテランのもとで政権に就くのである。

日本では、街宣車で軍歌を大音響で流し、ときにはテロで殺傷行為もする集団を右翼という。右翼とはそういう集団とと思っている人は「フランスで右翼が 93 年に政権に就いた？」と訝るかもしれない。その後、フランス右翼は大統領選挙（1995、2002 年）でもシラクを候補に立てて勝利している。つまりフランスの現政府も現大統領も右翼だ！ しかしその右翼は「しんぶん赤旗」のパリ浅田特派員がシラクの写真入りで「戦争犯罪を忘れない 仏大統領、次代へ継承訴え“歴史否定は真実への罪”」と積極的に伝える（「しんぶん赤旗」05 年 1 月 27 日）ような右翼だ。日本で右翼と称ばれる勢力はヨーロッパでは極右と称ばれる。つまり呼称の対象が一つズれている。

「右翼」「左翼」は偏向思想だとみなされる日本

ヨーロッパで右翼と称ばれる保守勢力は、日本では右翼と称されない。なぜか。フランス国民議会の議席の位置から右翼・左翼の言葉が生まれた歴史的経緯からわかるように、ヨーロッパでは右翼・

左翼は民主主義社会の公民・市民が選択する政治的立場である。日本では、右翼・左翼の語は、何か社会からズレた偏向的立場のニュアンスで使われる。自民党、公明党、民主党などの保守政党は、別に偏向思想ではないということなのか右翼とは称ばれない。同じ文脈で、偏向分子だとして左翼と称ばれることがある社会党、共産党は、みずからは革新勢力とか民主勢力とか称して、左翼偏向思想ではないと庶民に呼びかける。

戦中戦前の日本では「主義者」という言葉があった。天皇主義、軍国主義が支配的思想であったから、これらの思想を担ぐのは通常のことであった。偏向しているとして、弾圧され差別されたのは共産主義者、社会主義者、ときにはキリスト者であった。その名残は、主義＝理念＝イデオロギーは持たない方がよいという庶民の通俗常識として強く現在でも残っているようだ。公民館、市民会館とい



う公的施設が「9 条改憲反対や米軍基地反対などの政治目的のイベントや集会には会場を貸さない」としたり、公的図書館に政治党派の機関誌紙が備わっていないことが多い。これは、右翼・左翼の政治理念を選択し、その理念に従って政治的行為をする（例えばデモ フランスではマニフェスタシオン＝意思表示という）のが庶民＝「普通の人びと」の日常生活の領域には無い日本独特の風景と私は考えている。この 5 月 11 日、私は広島への平和行進のうち海老名市役所→米海軍厚木基地までの部分を歩いたのだが、数百人でそれほど長くはないデモの通過を待ちきれず、交通警察の制止を振り切ってクラクションを鳴らし罵声を挙げながら隊列に突っ込んできたクルマのおばさんがいた。そういうような風景である。また、ちょうどそのころ読んでいた現代ポーランドの少女小説「竜の年」（ルドニヤンスカ原書 91 年、田村訳書 99 年刊）では、カナダからきたおばさんがワルシャワで主人公のシルヴィアに次のように語っている。以上の文脈から、紹介する意味があると思う——「不思議な国だよ。ポーランドってのは。年とったばあさんまでがデモで走り廻り、今にも石を投げようとしているなんて。わたしの国じゃ、そんなことは若者の仕事だよ。」!!

政権党幹部が侵略戦争を美化する異常さ

日本の保守政党が右翼と称ばれないことのヨーロッパからのズレは、自民、公明、民主各党の中に極右思想の政治家がおり、かつ要人となっていることで、より一層甚だしいズレとなっている。極右潮流は、テロ的暴力の行使を手段として選択する点で民主主義社会から偏向した思想である。同時にそれは、第二次大戦のナチズム、軍国主義、ファシズムの側の侵略、植民地化の事実を否定するか、事実の存在は良いことだったと美化する。そして日本の保守政党の中には、その種の歴史修正主義の立場を公言する人士がますます勢力を強めている近年である。ヨーロッパでもドイツのモヒカン刈りの青年たちのような草の根極右勢力があり、また中軸国以外で極右政党が政権に就いたりしてはいるが、EU 中心国としてのドイツの政権政党の要人がナチはよかったとか、アウシュビッツは無かったとか述べることは絶対に無い。フランスでも当然そうである。右翼と極右は上掲の表にあるように峻別される。ところが、日本の保守政党は、右翼と極右の（民主党の場合はそれに社会民主主義との）合成体なのである。それが右翼とさえ呼ばれない

い珍現象である。こういう状況が珍奇とされない日本に慣れてしまっは、世界でまったく通用しないことになる。

侵略戦争賛美の動きに日中人民 共同のたたかいを！

私は 1998 年の春、下関市大学長として大学式典での日の丸掲揚を、学問の国家からの自由という憲法規範の具体的場である大学にまったくふさわしくない行為だとして取りやめるように尽力した。だが下関内外の極右勢力の攻撃的非難が激しく、力関係上、国旗掲揚は継続したが、この行為は間違っていると公言し続けた。そのことで、「下関から出て行け」「日本から出て行け＝非国民！」「死ぬね！（この世から出て行け?!）」との罵声を浴びた。

いま、日本における検定教科書での歴史修正主義の登場や、首相等の靖国参拝に抗議しての中国での「反日デモ」に対

する非難がメディアの上で声高に叫ばれている。「反日デモ」に大使館や日本料理店の物理的損傷に結果した暴力的部分があったことは残念なことであったが、もっと残念なのは、日本で侵略否定あるいは美化の極右的動きに反対するデモが何万何十万の規模で組織できなかったことである。そのような運動は「反日的（非国民的）」と極右の常套文句で非難されるかもしれない。しかし恐れずもう一つの日本、左翼の日本の存在を世界的に示すことの意義は大きかったであろう。

かって 1960 年の日本の安保闘争に和して北京で反日米安保の大デモが組織されたことがあった。今日、アメリカの支援を受けながら改憲突破を目指す日本の極右勢力に抗して、そういう日中人民共同のたたかいが発展することを願わずにはいられない。(05.05.24)

